

訪 探 市 吹 笛

シリーズ 第12回

笛吹市の地名

「笛吹」：…ふだんあまり疑問も持たず何気なく使っている地名ですが、一度考え出したらナゾが多くて面白く、「奥が深い！」と思わず唸うなってしまうほどの魅力に満ちています。

地名は自然的なものとの文化的なものに大きく分けられ、前者は地形、地質、動植物の生息・分布に係わり、後者は人間の活動(土地開発、産業、交通、姓名など)に係わっています。昔の人々がとらえた各地域の自然環境、歴史、社会が反映されていることも多いのです。

地名への関心は古く、『古事記』、『日本書紀』、『風土記』にもその起源について興味深い解説が見られるようです。

ただ注意すべきは表記される地名の漢字に惑わされないこと、時代の変化に応じて変わっていくことです。誤字や転記、改名も少なくありません。さらに日本語の基盤になったアイヌ語に由来するものや中国・朝鮮半島を経由してもたらされた西アジア起源のものもかなりあるらしいのです。アフリカや西アジアで便利な容器として使われていたヒョウタンが6000

年前の縄文時代の遺跡から出土していますから、言葉が「輸入」されてきたとしても不思議ではありません。

さて笛吹市内にも興味深い地名がたくさんあります。自然環境を端的に表す文字に山、谷、川、河、原などが多く、それらに位置や方向を付して作られますが、詳細、具体例は別の稿で紹介したいと思います。

地名には二文字のものが沢山あり、これは奈良時代に命令が出たためのもので、その時良い文字を当てて強引に変更したのもありました。

最近では1962年、住居表示に関する法律が施行され、簡略優先、歴史無視という批判が住民から多く出されました。

さて「笛吹市」ですが、旧町村の枠を超えて、市民や行政が協力して幸福に満ちた「地」にして行けるか・・・住民や来訪者に「住んで良かった」、「来て良かった」と言われる地となり、笛吹市の名を全国的に高めたものです。

笛吹市教育委員会 社会教育課



竜塚古墳：竜のような落雷にしばしば見舞われたのか？



八田家書院：八田は治田？ 治には開墾するという意味がある